

## 1章 本庄市の現況と課題

---



# 1章 本庄市の現況と課題

## 1. 本庄市の現況

### 1) 総人口・高齢者（65歳以上）人口割合の推移と将来見通し

#### ポイント

- ☞ 高度経済成長期以降、人口は右肩上がり増加、平成12年をピークに減少傾向です。
- ☞ 令和2年人口は国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）による推計値を一時的に上回ったが、中・長期的には減少傾向に転じる見込みです。
- ☞ 令和2年高齢者（65歳以上）人口割合は約29%となっており、令和22年には40%に達する見込みです。

本市の人口は、高度経済成長期以降、右肩上がり増加し続けていきましたが、平成12年の82,670人<sup>※1</sup>をピークに、減少傾向に転じています。

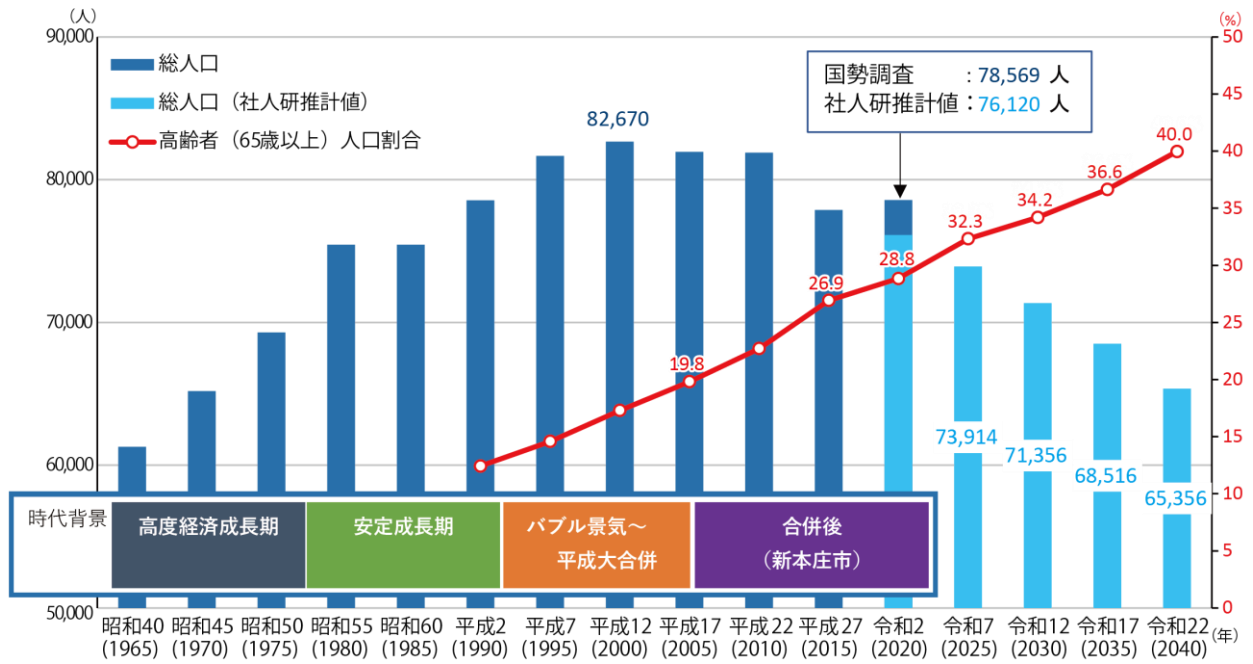
令和2年の人口は78,569人と、社人研による推計値（平成30年推計）<sup>※2</sup>の76,120人を約2,400人上回る結果となっていますが、これは早稲田の杜地区の人口増加の影響であり、中・長期的には減少傾向に転じることが見込まれます。

現状のまま推移した場合、人口減少が進展し、20年後の令和22年（2040年）には65,356人まで減少する見込みとなっています。また、高齢者（65歳以上）人口割合は令和2年で28.8%となっていますが、令和22年には40.0%まで上昇する見込みとなっています。

※1 5年ごとに実施される国勢調査のデータを基にしたピーク人口であり、埼玉県町（丁）字別人口調査においては平成14年をピークに人口が減少傾向に転じている。

※2 “人口等の将来の見通しは、立地適正化計画の内容に大きな影響を及ぼすことから、（中略）社人研の将来推計人口を参酌すべきである。” 「第12版都市計画運用指針」（国土交通省、令和4年4月）を踏まえ、社人研の「日本の将来推計人口（平成29年推計）」（出生中位・死亡中位仮定）の地域別推計「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」を採用している。

## ■ 将来人口と高齢化の見通し



出典：総理府統計局・総務庁統計局・総務省統計局「昭和40年～令和2年国勢調査」  
 国立社会保障・人口問題研究所「平成30年推計日本の地域別将来推計人口」



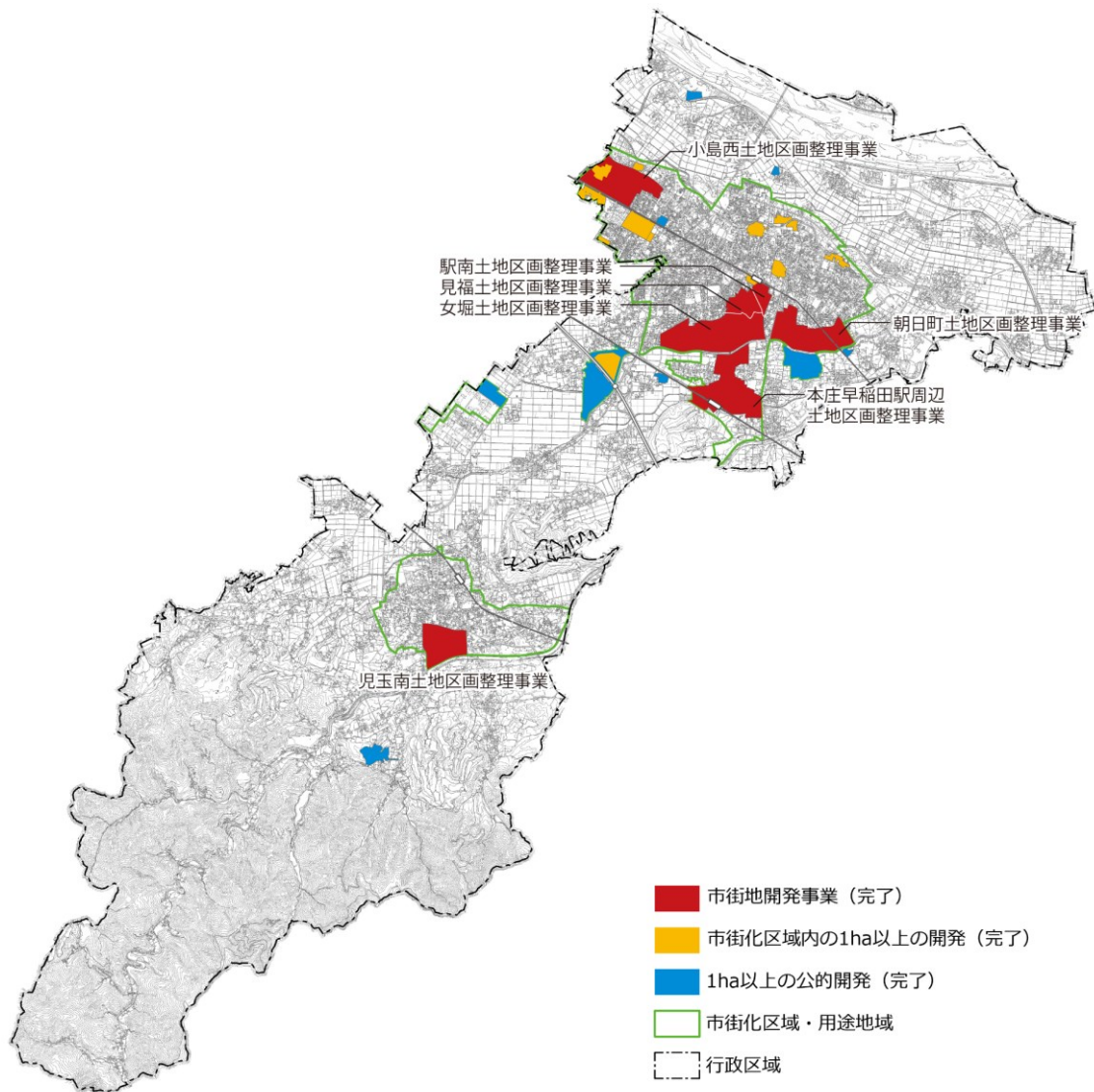
## 2) 市街地の形成過程

### ポイント

- ☞ 高度経済成長期以降の人口増加に対応するため、既成市街地の外縁部を中心に計画的な市街地整備を推進しました。
- ☞ 平成25年度に本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業、平成27年度に児玉南土地区画整理事業が完了し、当該事業区域内の人口は緩やかに増加しています。

本市では、高度経済成長期以降の急速な人口増加に対応するため、既成市街地の外縁部を中心に土地区画整理事業等による計画的な市街地整備を行ってきました。本庄早稲田駅周辺においては、本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業が平成25年度に、また、児玉駅周辺においては、児玉南土地区画整理事業が平成27年度に完了し、若い世代を中心に当該事業区域内の人口が緩やかに増加しています。

### ■ 市街地整備の状況



出典：本庄市「令和2年都市計画基礎調査」

### 3) 市街地の人口集積

#### ポイント

- 市街地整備を推進してきた既成市街地の外縁部を中心に人口集中地区※（以下「D I D」という。）が拡大しています。
- 市街化区域内での定住が進み、一定の人口集積が図られています。

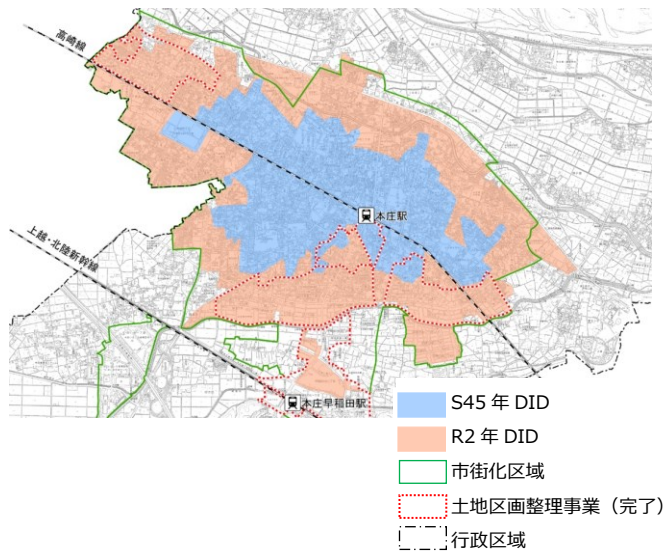
市街地整備を推進してきた既成市街地の外縁部を中心にD I Dが形成されてきました。その結果、昭和45年（1970年）から令和2年（2020年）にかけてD I D面積は約2.6倍、同人口は約1.8倍に拡大し、市街化区域内での定住が進みました。

市街化区域内人口密度は41.3人/haと一定の人口集積が図られています。

#### ■ DID の変遷

年	人口 (人)	面積 (ha)	人口密度 (人/ha)
昭和 45	25,503	360	70.8
55	33,474	600	55.8
平成 2	41,128	740	55.6
12	43,509	794	54.8
22	45,427	836	54.3
27	42,592	841	50.6
令和 2	45,115	948	47.6
R2/S45比	1.77	2.63	0.67

出典：総理府統計局・総務庁統計局・総務省統計局「昭和45年～令和2年国勢調査」

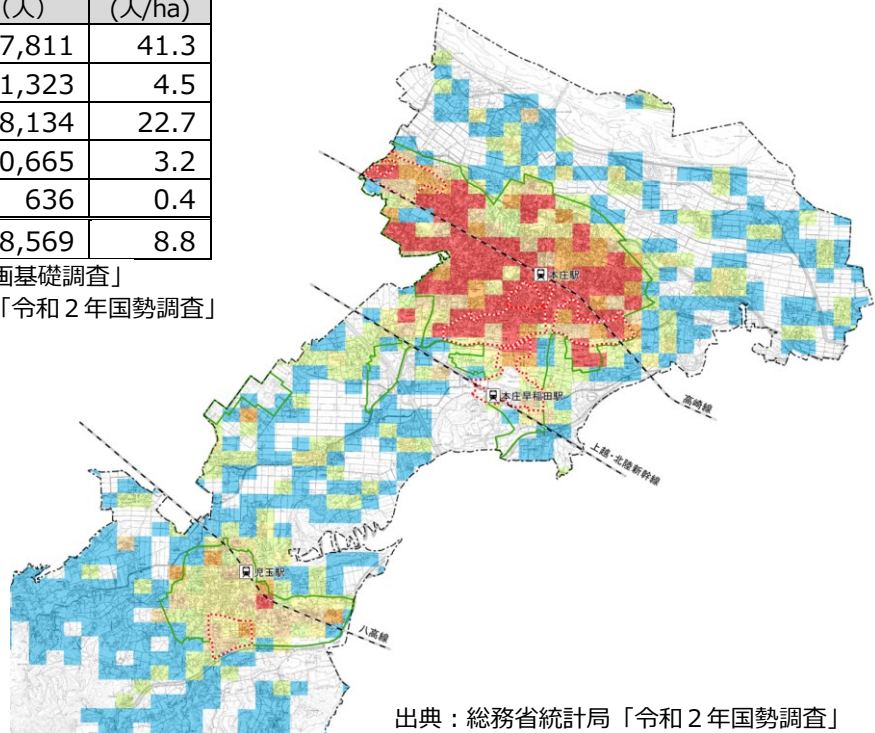


#### ■ 人口密度（令和2年）

区域		人口 (人)	人口密度 (人/ha)
本庄都市	市街化区域	47,811	41.3
	計画区域	11,323	4.5
児玉都市	用途地域	8,134	22.7
	計画区域	10,665	3.2
都市計画区域外		636	0.4
市全域		78,569	8.8

出典：本庄市「令和2年都市計画基礎調査」  
市全域のみ総務省統計局「令和2年国勢調査」

- 10人/ha未満
  - 10～20人/ha未満
  - 20～30人/ha未満
  - 30～40人/ha未満
  - 40～50人/ha未満
  - 50人/ha以上
  - 市街化区域・用途地域
  - 土地区画整理事業（完了）
  - 行政区域
- ※250mメッシュ



出典：総務省統計局「令和2年国勢調査」

※ 人口集中地区（D I D）：国勢調査の結果から、人口密度が40人/ha以上の区域が隣接し、それらの隣接した地域の人口が5千人以上を有する地域であり、都市の市街化を示す指標として用いられている。



## 4) 地区別の人口推移と高齢者（65歳以上）人口割合

### ポイント

☞ 既成市街地（まちなか）を中心に人口減少・高齢化の進展が顕著です。

平成22年（2010年）から令和2年（2020年）の人口増減を500mメッシュで見ると、本庄駅や児玉駅周辺など、既成市街地（まちなか）を中心に人口減少が進展しています。

また、令和2年時点の高齢者（65歳以上）人口割合は、既成市街地（まちなか）を中心に30%を超えており、人口減少に加えて高齢化も進展しています。

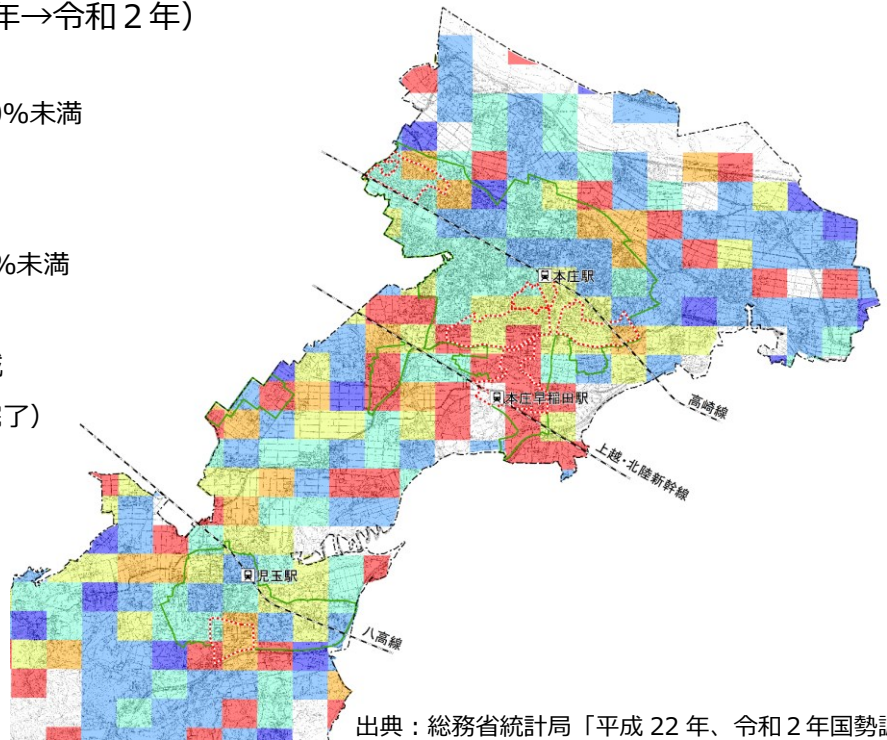
#### ■人口増減率（平成22年→令和2年）

- 【減少】20%以上
- 【減少】10%以上～20%未満
- 【減少】10%未満
- 【増加】10%未満
- 【増加】10%以上～20%未満
- 【増加】20%以上

- 市街化区域・用途地域
- 土地区画整理事業（完了）

□ 行政区域

※500mメッシュ



出典：総務省統計局「平成22年、令和2年国勢調査」

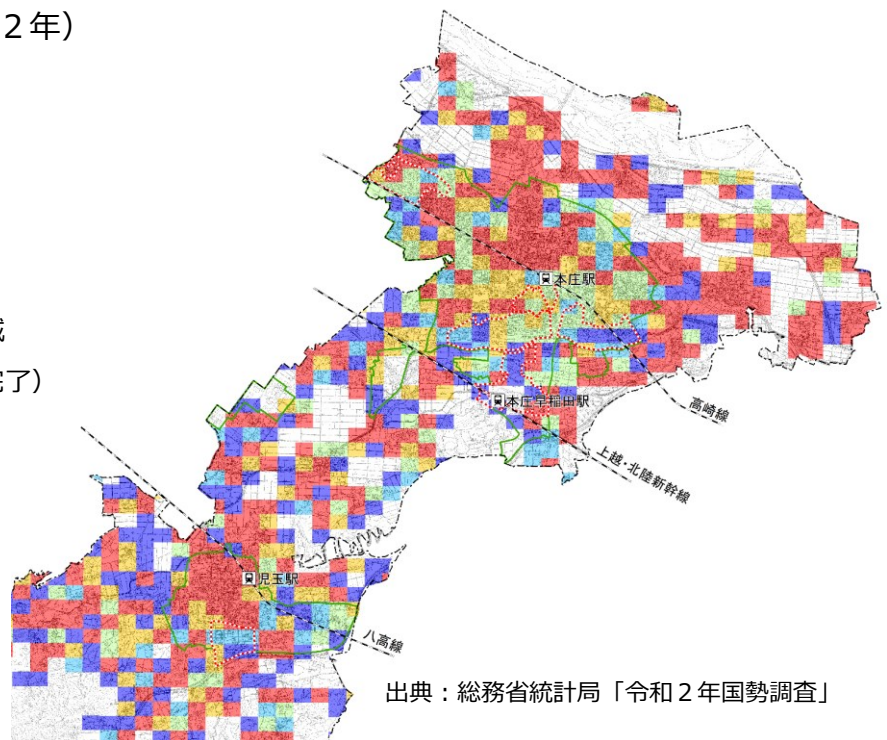
#### ■高齢者人口割合（令和2年）

- 15%未満
- 15～20%未満
- 20～25%未満
- 25～30%未満
- 30%以上

- 市街化区域・用途地域
- 土地区画整理事業（完了）

□ 行政区域

※250mメッシュ

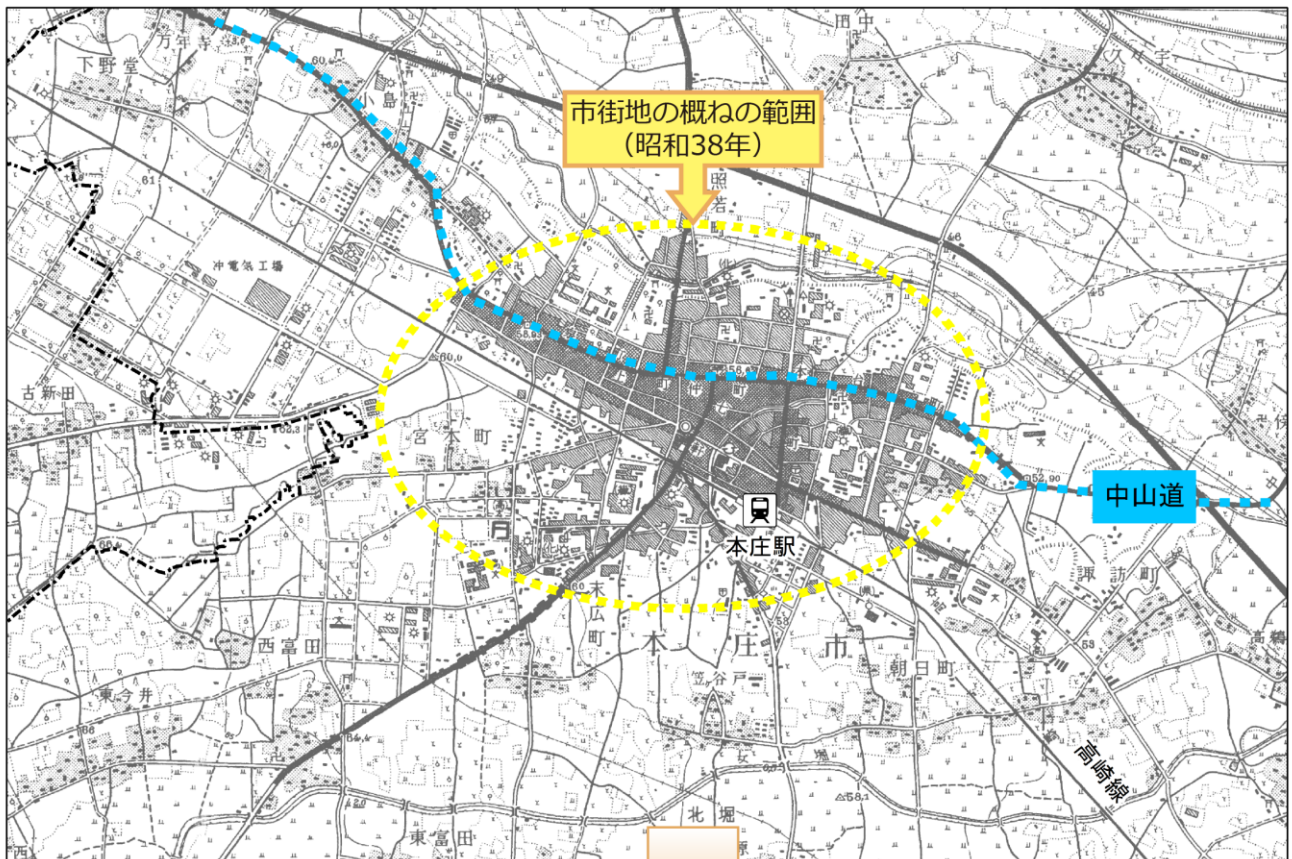


出典：総務省統計局「令和2年国勢調査」



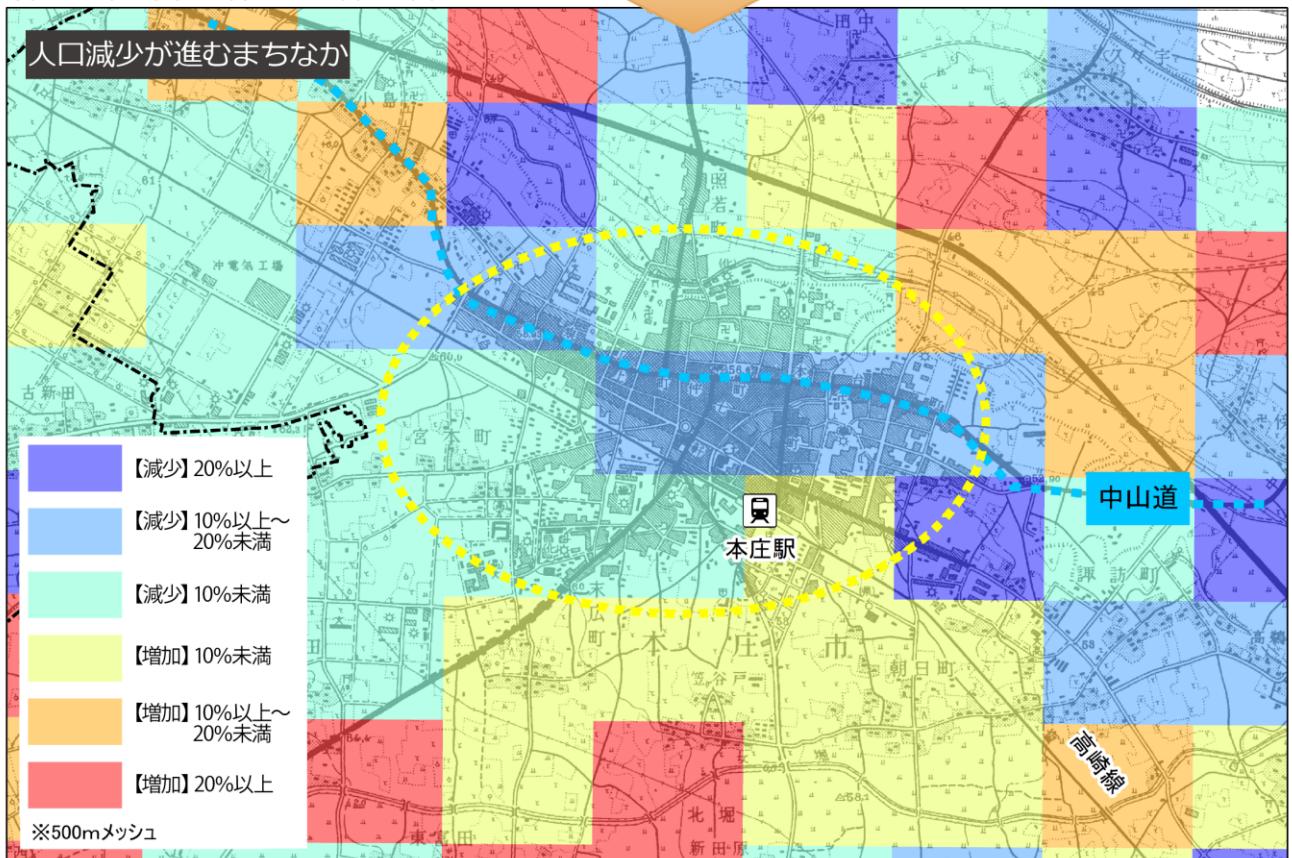
## ■本庄駅周辺における人口増減率

【本庄駅周辺における市街地の形成状況（昭和38年）】



出典：国土地理院「旧版地形図」

【人口増減率  
（平成22年→令和2年）の重ね合わせ図】

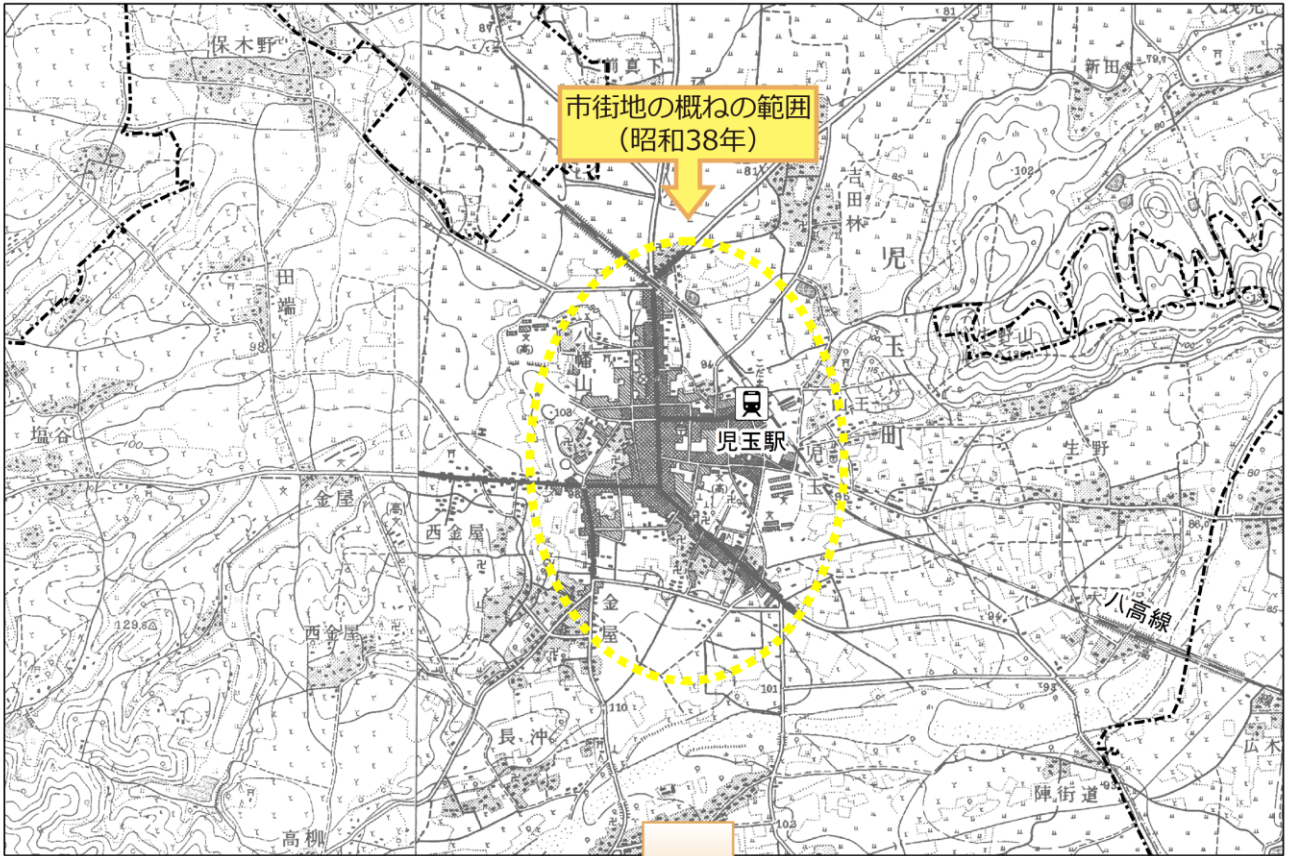


出典：総務省統計局「平成22年、令和2年国勢調査」



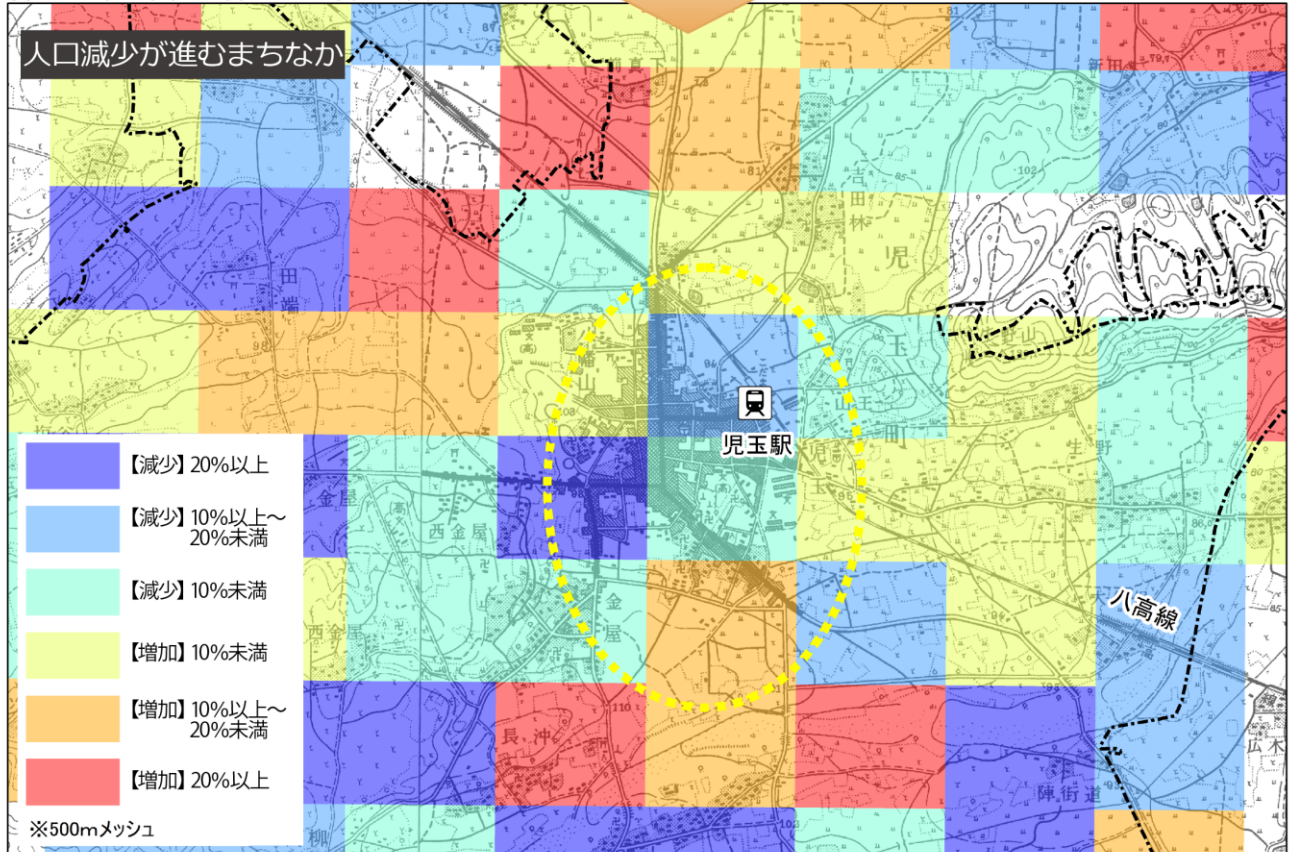
■ 児玉駅周辺における人口増減率

【児玉駅周辺における市街地の形成状況（昭和38年）】



出典：国土地理院「旧版地形図」

【人口増減率  
(平成22年→令和2年) の重ね合わせ図】



出典：総務省統計局「平成22年、令和2年国勢調査」



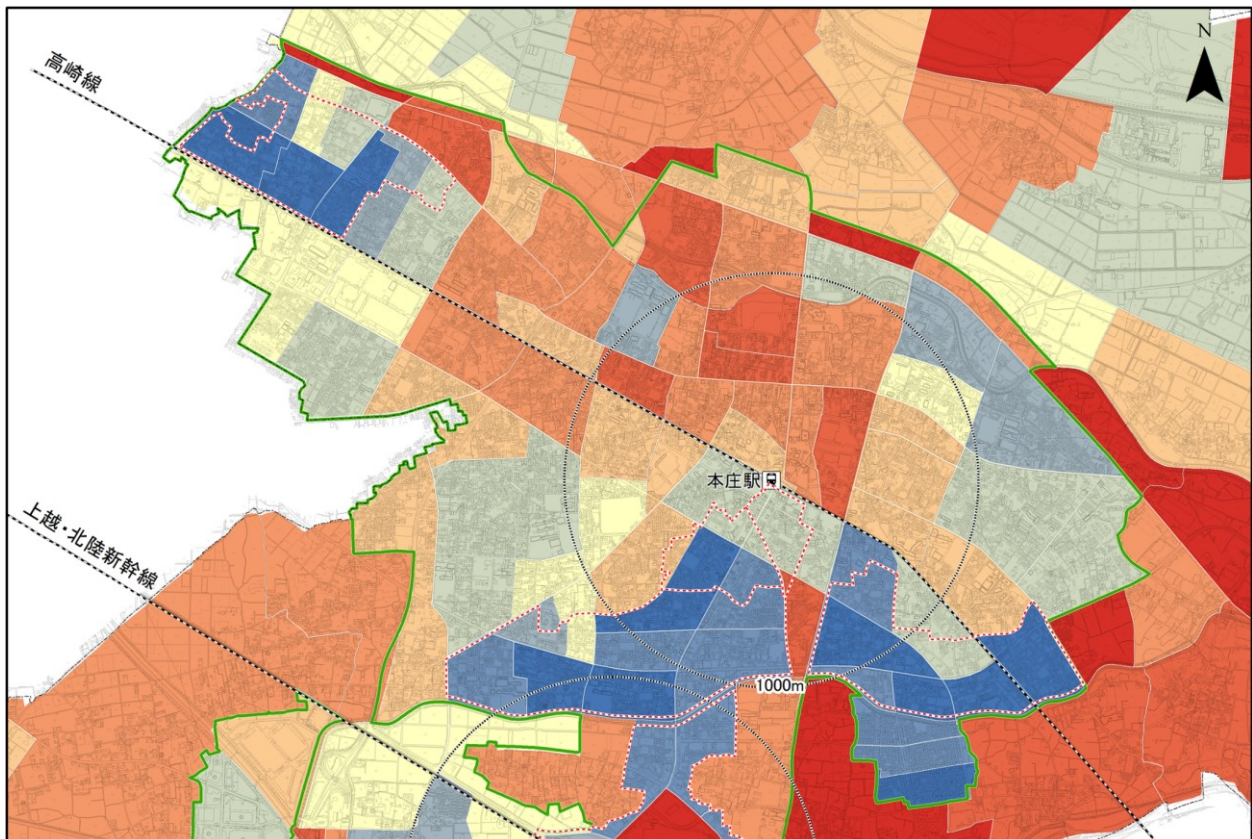
## 5) 道路基盤

### 🔦 ポイント

👉 既成市街地（まちなか）を中心に道路基盤の整備が立ち遅れています。

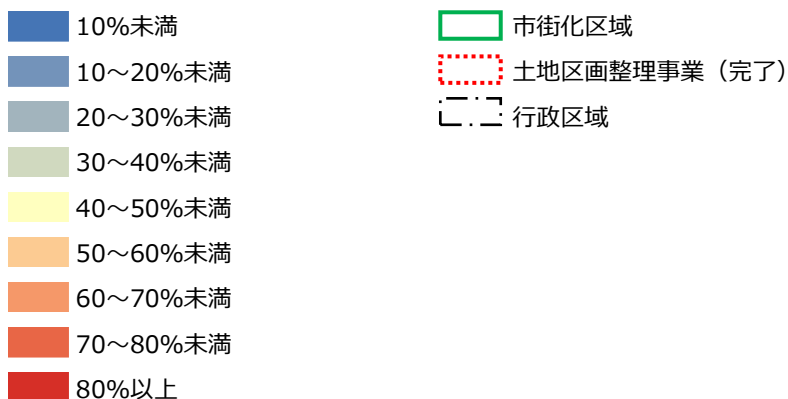
古くから形成された既成市街地（まちなか）は、幅員4m未満の狭あい道路が面的に分布し、道路基盤の整備が立ち遅れている状況にあります。このような状況下では、自力による建物更新が難しい状況にあるほか、緊急車両の通行を妨げたり、災害時の避難が困難となるなど、防災面の問題が懸念されます。

#### ■ 本庄駅周辺における町丁目・小字別の狭あい道路（幅員4m未満道路）割合

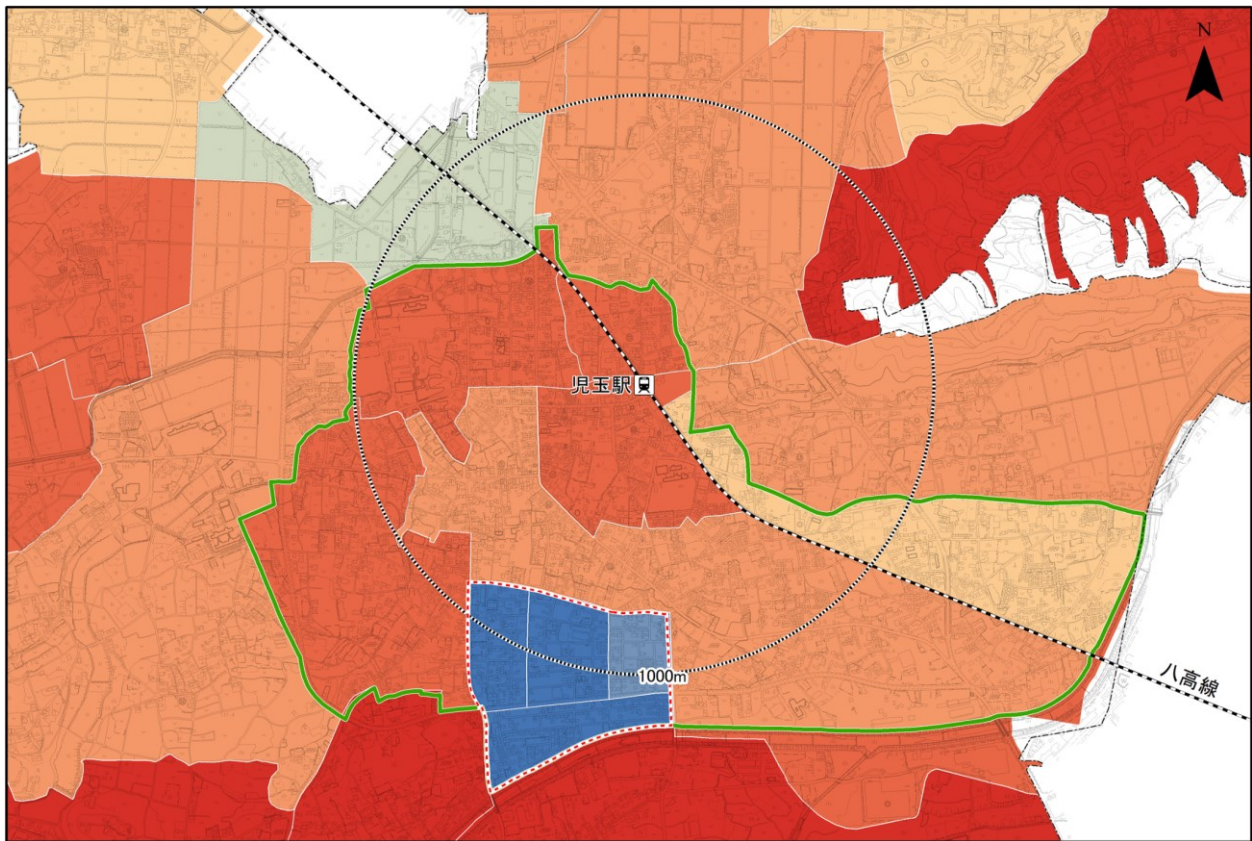


狭あい道路の割合（狭あい道路の路線数÷総路線数）×100

※市道認定道路を対象とした割合

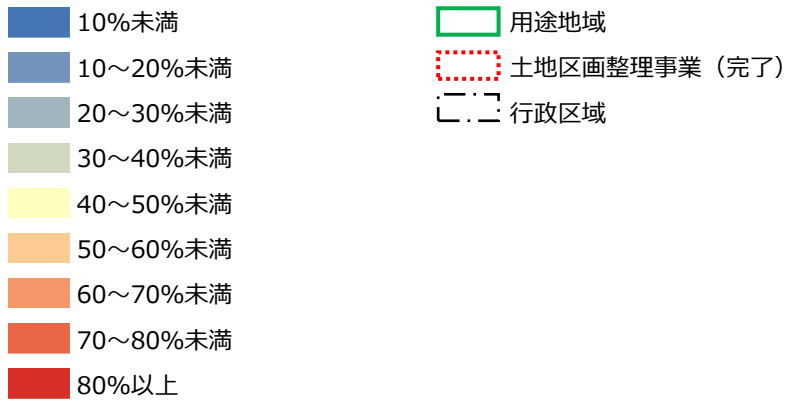


■ 児玉駅周辺における町丁目・小字別の狭あい道路（幅員4m未満道路）割合



狭あい道路の割合（狭あい道路の路線数÷総路線数）×100

※市道認定道路を対象とした割合





## 6) 空き家・低未利用土地

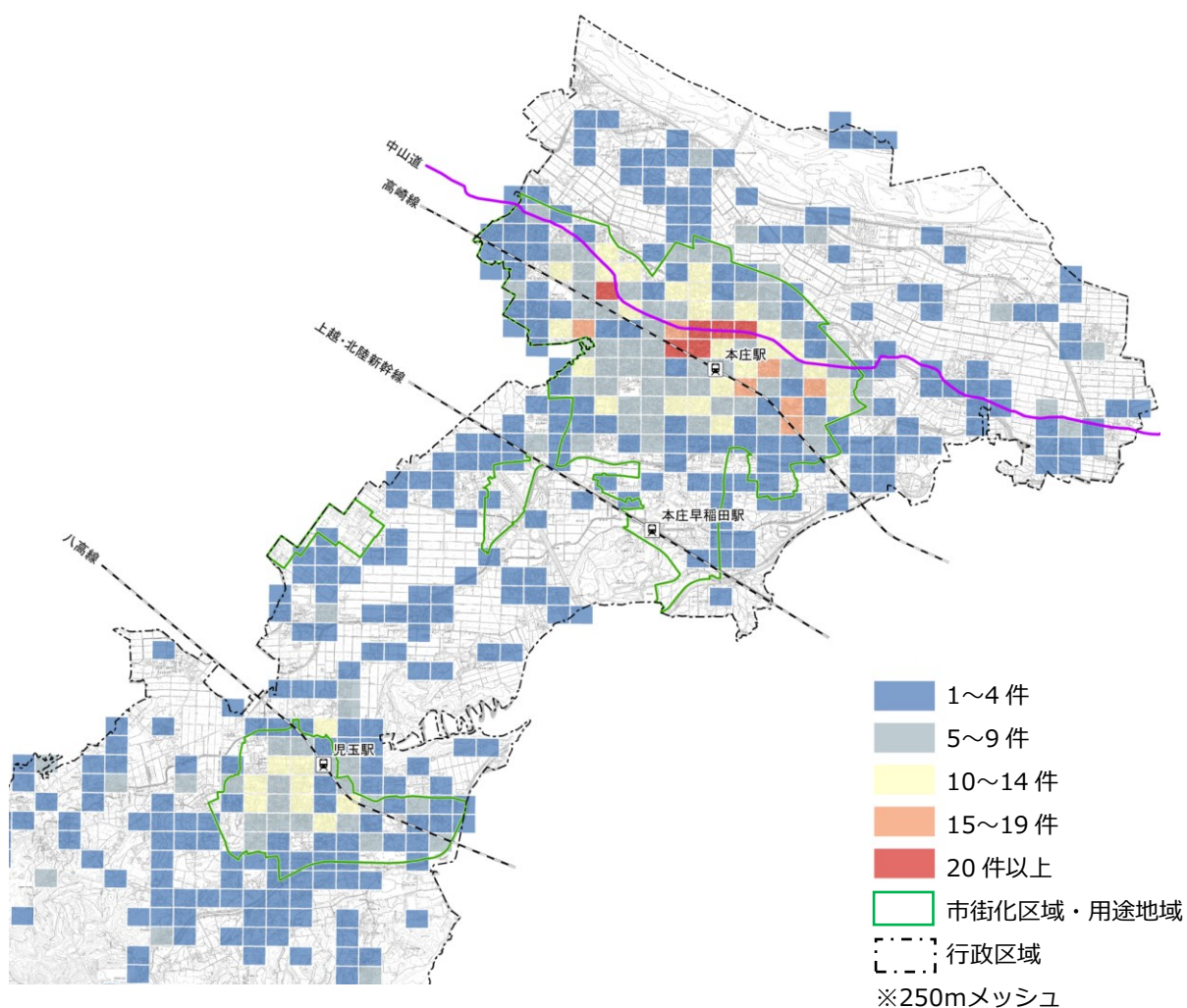
### 🔦 ポイント

- 👉 既成市街地（まちなか）を中心に多くの空き家が発生しています。
- 👉 空き家が除却された跡地は、青空駐車場として利用される傾向があります。

空き家分布状況（令和2年度現在）を見ると、本庄駅周辺は中山道と高崎線の間  
の区域を中心に、児玉駅周辺は駅の西側を中心に多くの空き家が分布しています。

また、令和2年都市計画基礎調査における土地利用現況調査の結果から低未利用土  
地を抽出したところ、本庄駅周辺では、空き家が除却されたのちに小規模な青空駐車  
場や更地のままになっている例が多く、賑わいの低下の原因にもなっています。

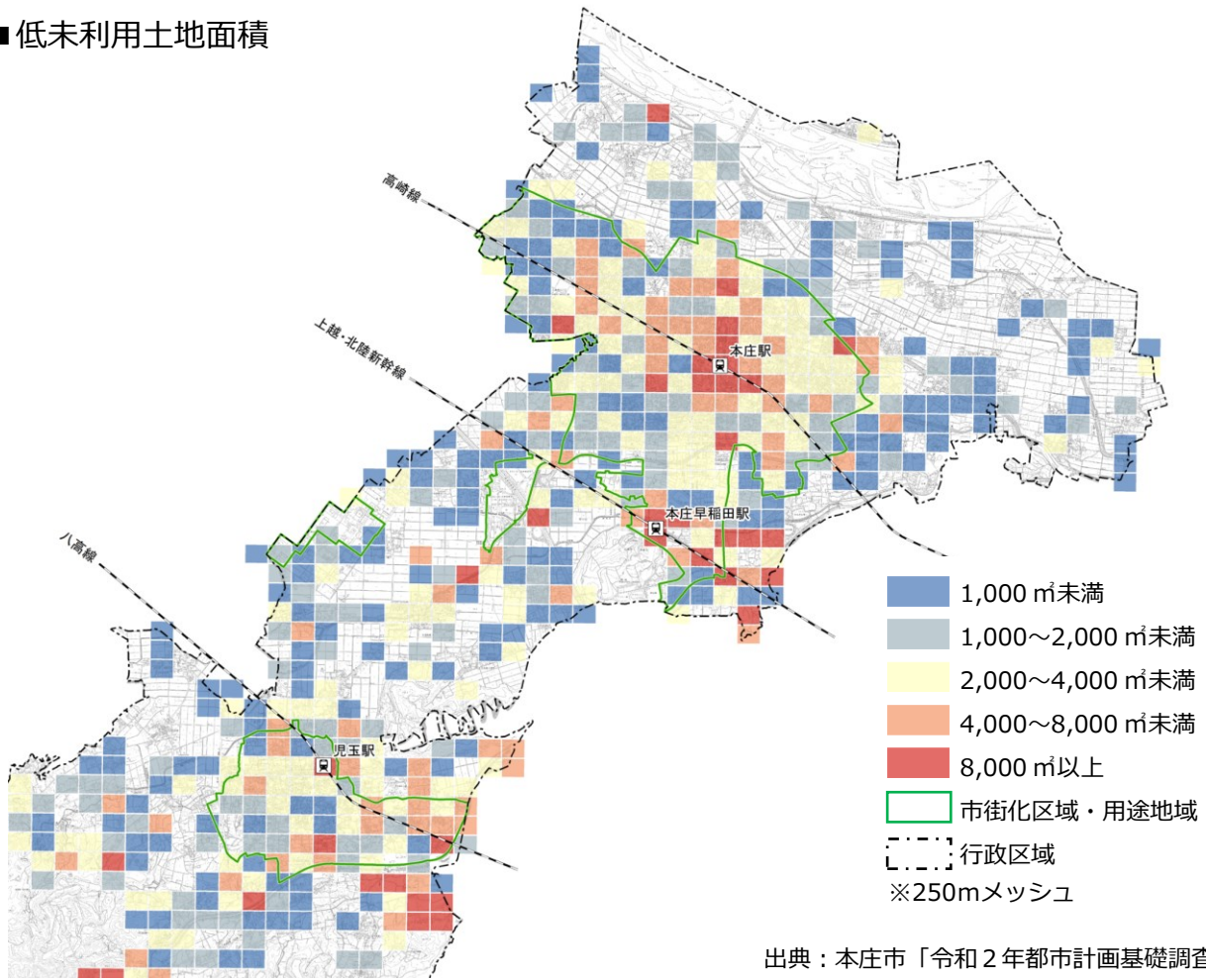
### ■ 空き家件数



出典：本庄市「令和2年空き家実態調査」

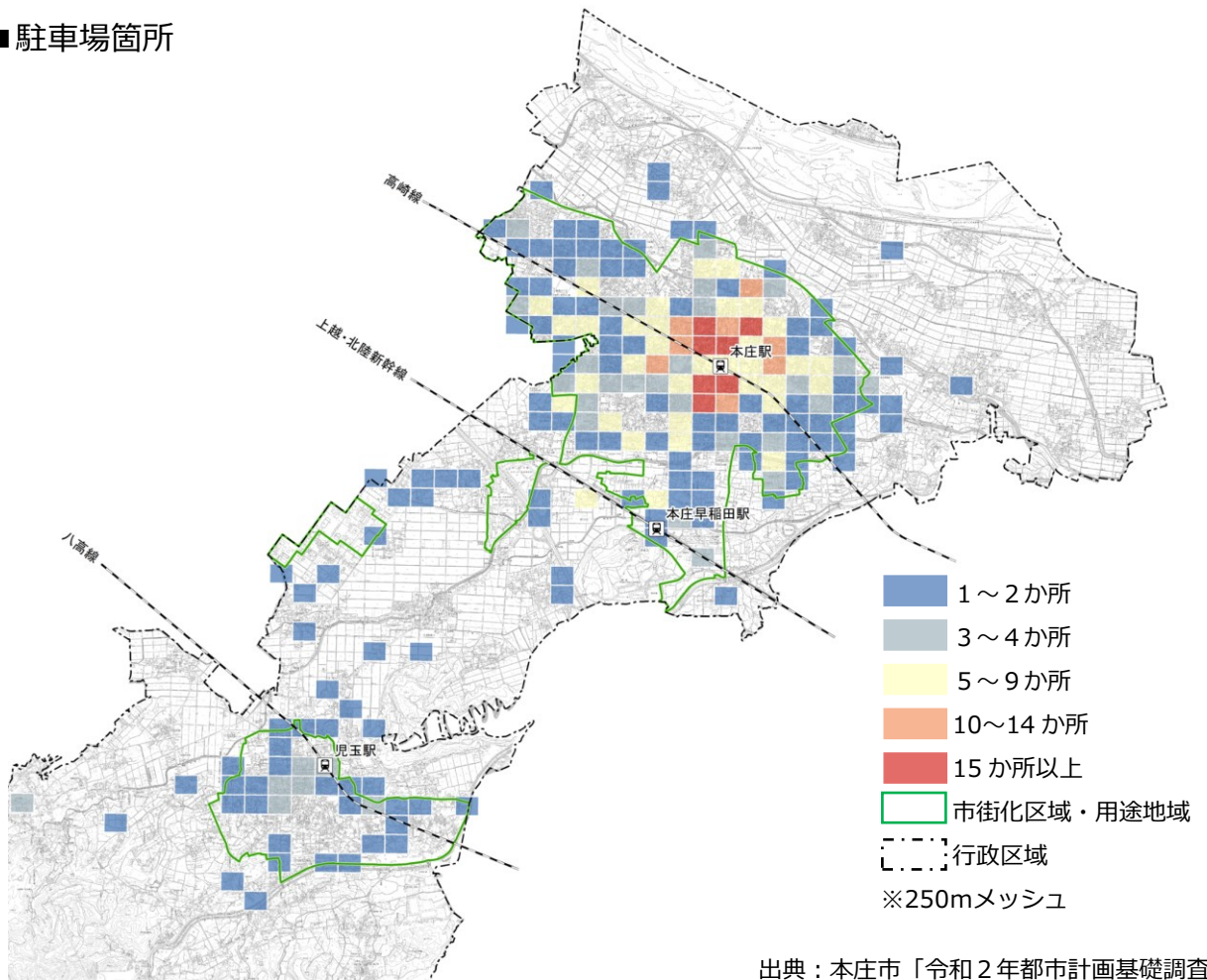


■ 低未利用土地面積



出典：本庄市「令和2年都市計画基礎調査」

■ 駐車場箇所



出典：本庄市「令和2年都市計画基礎調査」

## 7) 市民ニーズ

### ポイント

- ☞ 災害に対する安全性や医療機関・福祉施設等へのアクセスを重視する人が多くなっています。
- ☞ 自然環境や公園緑地への満足度が高くなっています。
- ☞ 居住環境に関する多くの項目で満足度が向上しています。

令和3年度に実施した市民アンケート結果によると、居住地域と市全体の環境については「地震・水害などの自然災害に対する安全性」「医療機関や福祉施設等へのアクセス」を重視している人が多くなっています。また、満足度が最も高い項目は「自然環境、公園や緑地など緑の豊かさ」であり、前回との比較では多くの項目で満足度が向上しています。

### ■ 居住環境に対する満足度と重要度（居住地域・市全体）

項目	居住地域		市全体	
	満足度	重要度	満足度	重要度
まちなみの景観や眺望の美しさ	0.36	0.96	0.32	0.96
自然環境、公園や緑地など緑の豊かさ	0.61	1.16	0.56	1.09
育児関連の施設へのアクセス	0.14	0.96	0.15	0.95
医療機関や福祉施設等へのアクセス	0.06	1.45	0.06	1.39
公共施設へのアクセス	0.39	1.03	0.29	1.02
通勤や通学の利便性	0.29	1.10	0.28	1.07
買い物の利便性	0.47	1.32	0.41	1.26
鉄道やバスなど公共交通機関の整備	-0.04	1.19	0.06	1.17
生活道路の整備	0.11	1.21	0.15	1.17
幹線道路の整備	0.27	1.04	0.25	1.06
ゴミや下水、騒音など衛生面や生活環境面	0.33	1.31	0.22	1.25
近所づきあいやコミュニティのよさ	0.32	0.81	0.22	0.81
まちの防犯性	0.18	1.38	0.16	1.34
地震・水害などの自然災害に対する安全性	0.60	1.52	0.48	1.49
平均	0.29	1.17	0.26	1.15

出典：本市「令和3年度市民アンケート調査」

### ■ 居住環境に対する満足度（前回と今回の変化）

項目	居住地域		市全体	
	今回	前回	今回	前回
まちなみの景観や眺望の美しさ	0.36	0.01	0.32	-0.04
自然環境、公園や緑地など緑の豊かさ	0.61	0.22	0.56	0.19
育児関連の施設へのアクセス	0.14	-0.08	0.15	-0.09
医療機関や福祉施設等へのアクセス	0.06	-0.22	0.06	-0.23
公共施設へのアクセス	0.39	0.23	0.29	0.10
通勤や通学の利便性	0.29	0.20	0.28	0.08
買い物の利便性	0.47	0.17	0.41	0.03
鉄道やバスなど公共交通機関の整備	-0.04	0.10	0.06	0.00
生活道路の整備	0.11	0.01	0.15	0.03
幹線道路の整備	0.27	0.14	0.25	0.09
ゴミや下水、騒音など衛生面や生活環境面	0.33	0.13	0.22	0.06
近所づきあいやコミュニティのよさ	0.32	0.20	0.22	0.09
まちの防犯性	0.18	-0.10	0.16	-0.17
地震・水害などの自然災害に対する安全性	0.60	0.13	0.48	0.04

※満足度・重要度は、質問の選択肢ごとに2から-2点を与えて回答数に乘じ、無回答を除く合計回答数で除した加重平均値。数値が高いほど、満足度や重要度が高いことを示す。

「満足」/「とても重要」 ← 2点  
「やや満足」/「やや重要」 ← 1点  
「どちらでもない」 ← 0点  
「やや不満」/「あまり重要でない」 ← -1点  
「不満」/「重要でない」 ← -2点

出典：本市「令和3年度市民アンケート調査」

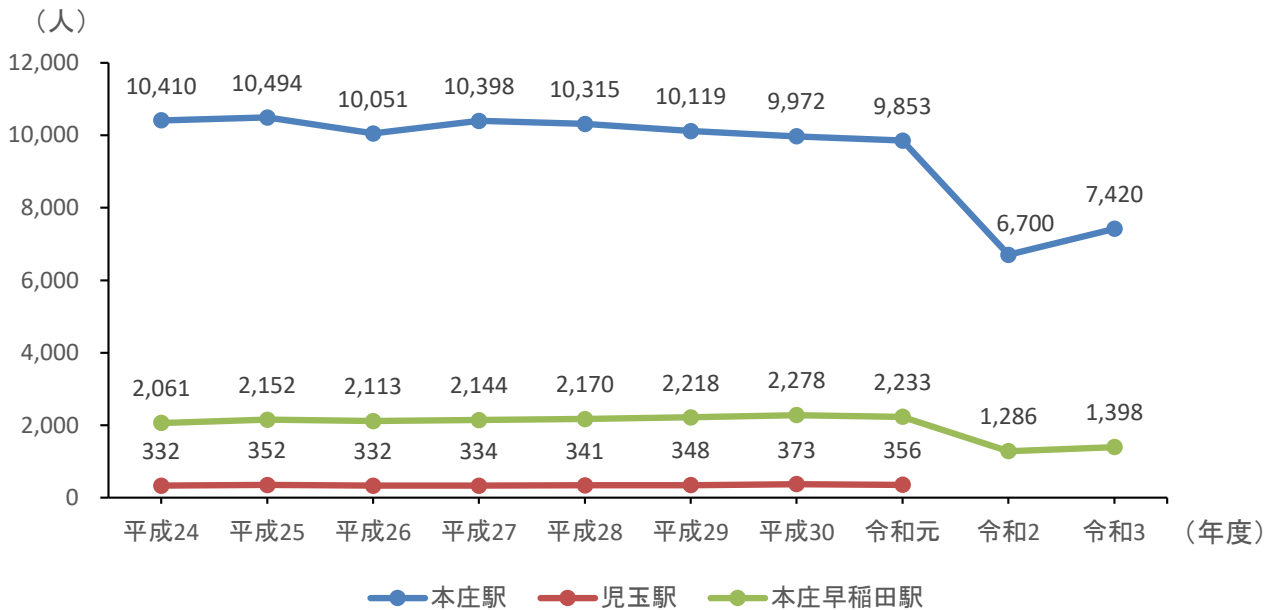
## 8) 都市交通

### 💡ポイント

- ☞ 3つの駅を中心とした公共交通網を形成しています。
- ☞ 児玉駅が無人駅となりました。
- ☞ コロナ禍により、各駅の乗車人員が大幅に減少し、コロナ禍前の状況まで回復する可能性は低いと考えられます。
- ☞ 本庄市地域公共交通計画に基づき、公共交通を維持・確保（本庄駅⇄本庄早稲田駅のシャトルバス、市全域でデマンドバス運行）します。

本市は、高崎線本庄駅、八高線児玉駅、上越・北陸新幹線本庄早稲田駅の鉄道3路線3駅を有していますが、コロナ禍により各駅の乗車人員が大幅に減少し、コロナ禍前の状況まで回復する可能性は低く、また、令和3年3月からは児玉駅が無人駅となりました。

### ■鉄道各駅の乗車人員の推移



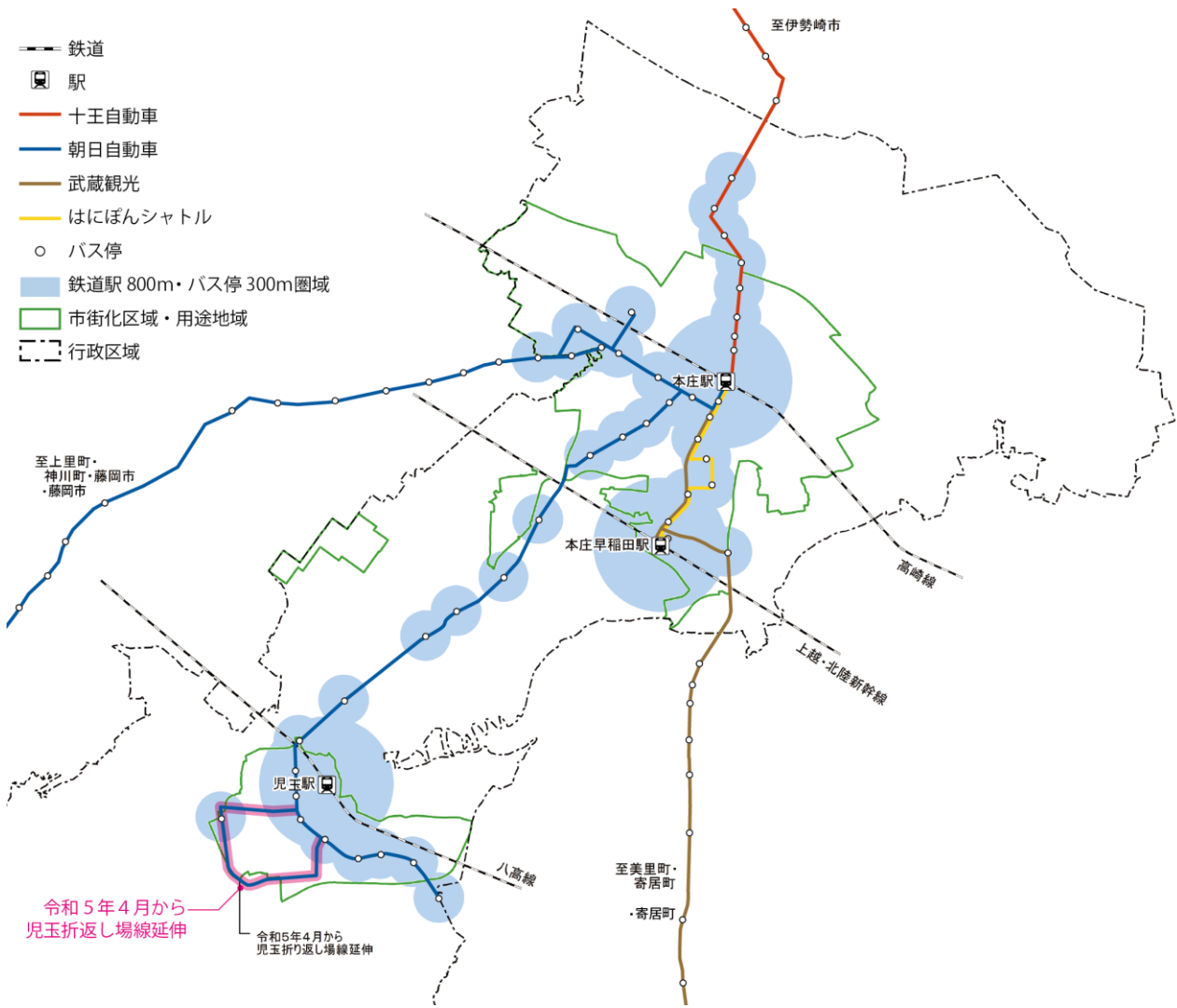
※児玉駅は無人化に伴い令和2年度以降のデータが公表されていない

出典: JR 東日本「各駅の乗車人員」

その他の広域的な公共交通として、民間の定時定路線のバスが本庄駅と近隣市町（伊勢崎市、藤岡市、美里町、神川町、上里町、寄居町）を連絡しています。また、本庄駅と本庄早稲田駅を結ぶ路線としてシャトルバス（はにぽんシャトル）を運行しています。

市街化区域・用途地域内において、これらのバスの運行範囲から外れる区域が一部存在していますが、デマンドバス（はにぽん号・もといずみ号）の運行により市内ほぼ全域をカバーしています。

## ■公共交通ネットワーク





## 9) 生活サービス施設

### ポイント

生活サービス施設は、市街化区域・用途地域内を中心に広く分布し、徒歩や自転車、バスにより利用できる状況にあるものの、商業機能は郊外に拡散する傾向です。

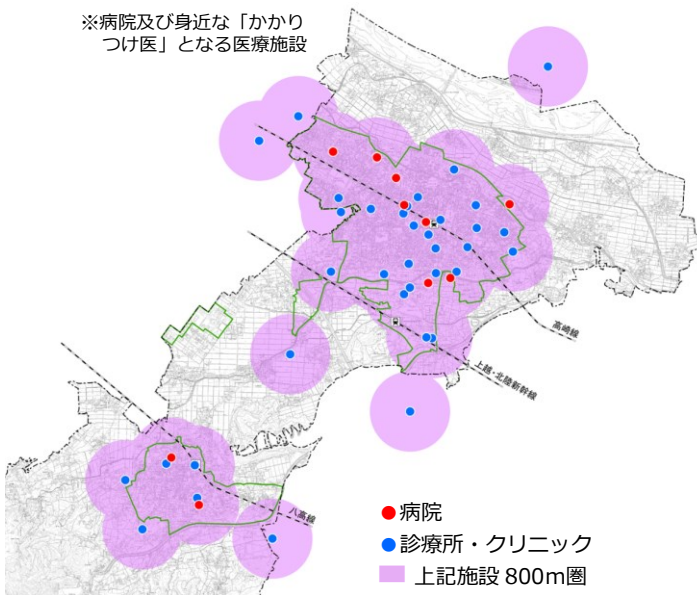
子育て世代から高齢者まで幅広い世代が日常的に利用する生活サービス施設（医療・福祉・子育て・商業等）は、市街化区域・用途地域内を中心に市内に広く分布しており、徒歩や自転車、バスにより利用できる状況にあります。

一方で、近年、商業施設の大型化やモータリゼーションの進展に伴い、幹線道路沿道などの郊外に商業機能が拡散する傾向が見られます。

### ■身近な生活サービス施設の立地と徒歩圏（800m）分布

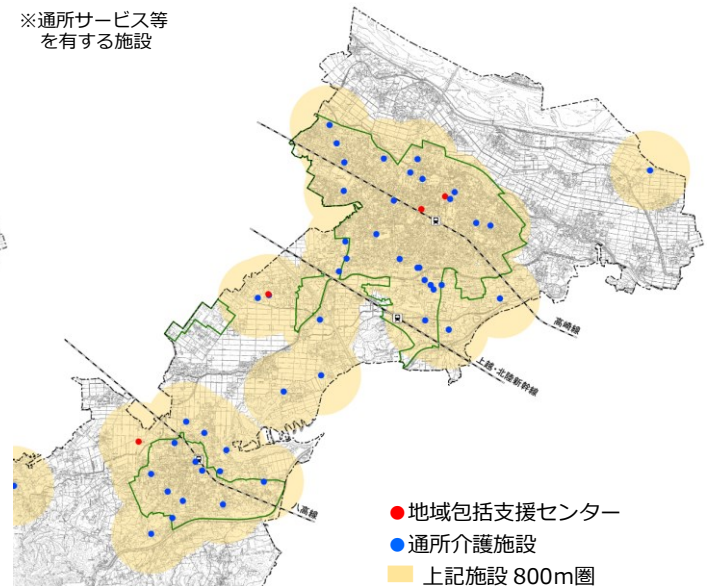
#### 【医療施設】

※病院及び身近な「かかりつけ医」となる医療施設



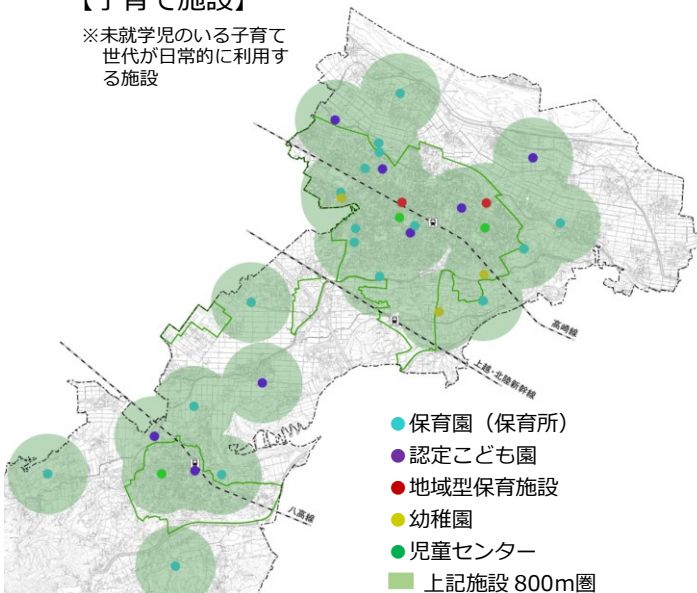
#### 【福祉施設】

※通所サービス等を有する施設



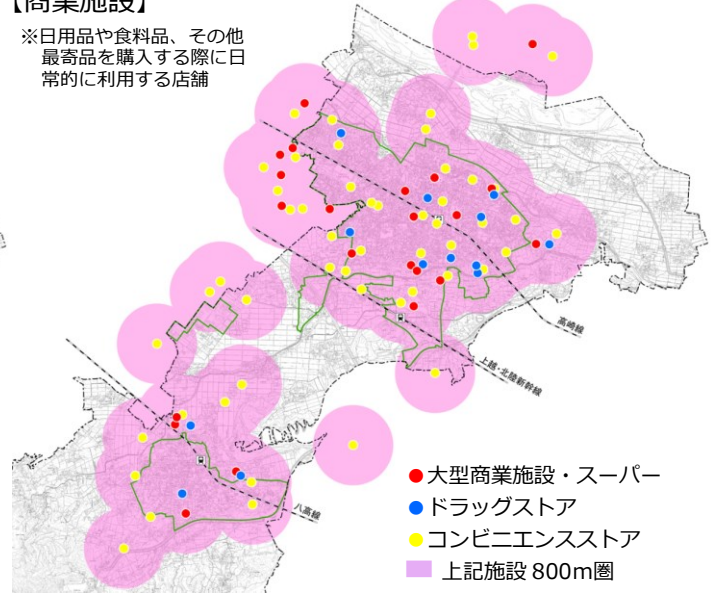
#### 【子育て施設】

※未就学児のいる子育て世代が日常的に利用する施設



#### 【商業施設】

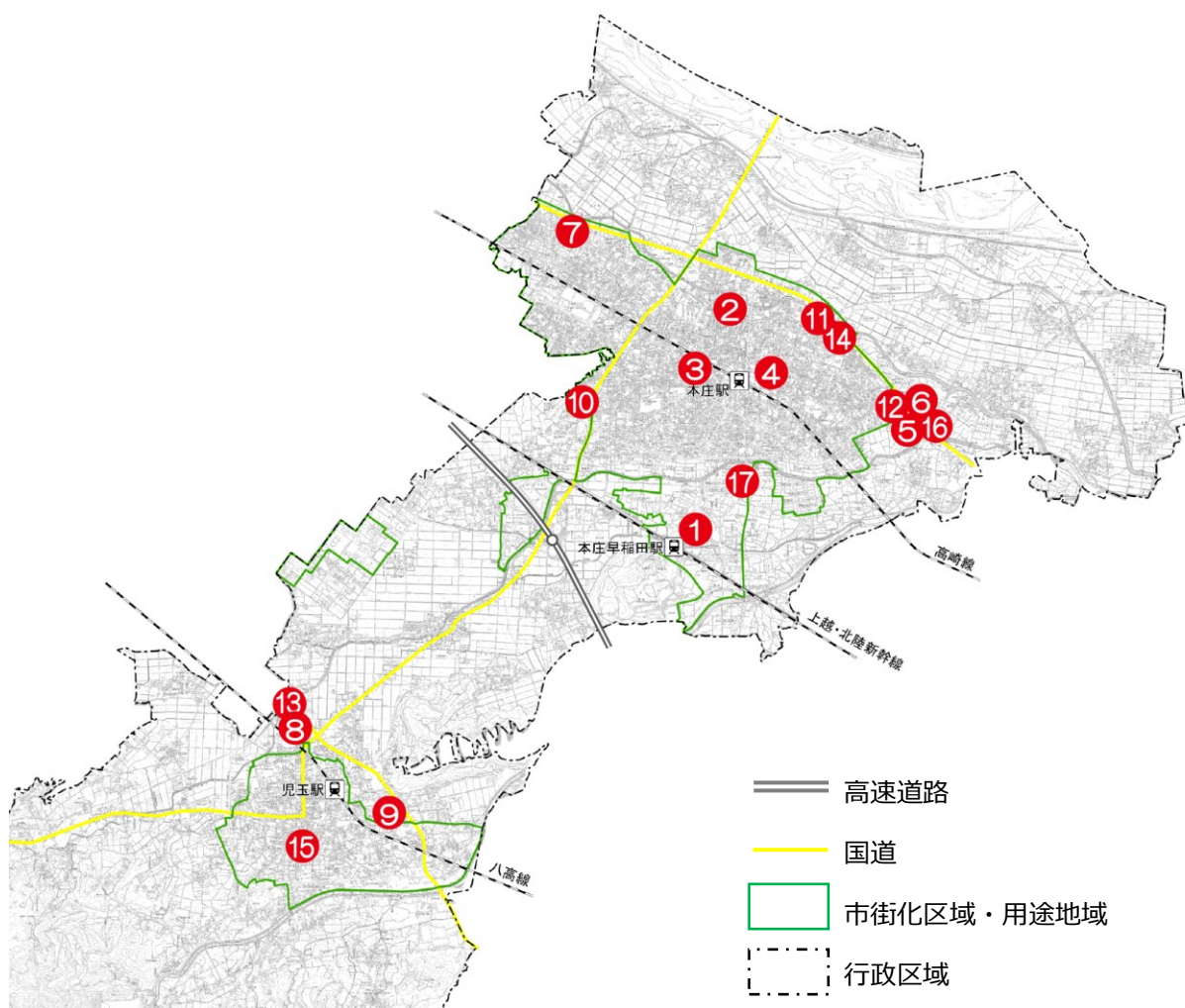
※日用品や食料品、その他最寄品を購入する際に日常的に利用する店舗



## ■大規模店舗の出店状況

	店舗の名称	店舗面積(㎡)	開店年月
①	ベイシア本庄早稲田モール	20,467	H25.06
②	ビバモール本庄中央	19,565	R01.11
③	MEGA ドン・キホーテ UNY 本庄店	11,070	R02.05
④	バナーズビル	10,374	R01.06
⑤	ベスト本庄	7,400	H24.07
⑥	テックランド NEW 本庄店	6,834	R03.11
⑦	ケースデンキ本庄店	6,401	H21.12
⑧	フレッセイ児玉店	5,278	H22.11
⑨	ヤオコー児玉バイパス店 (児玉ショッピングプラザ)	4,056	H07.11
⑩	カワチ薬品本庄店	3,780	H12.09
⑪	アンモール本庄、アップガレージ埼玉本庄店、ジェーソン本庄店	3,718	H05.10
⑫	ワンダーグー本庄店、ハードオフ本庄店	3,637	H21.07
⑬	カインズホーム児玉店	3,492	H01.06
⑭	ヤマダ電機テックランド本庄店	3,227	H12.09
⑮	ウエルシア本庄児玉南店	1,693	H09.12
⑯	カワチ薬品本庄東店	1,518	H28.01
⑰	やましろや新本庄店	1,380	R03.10

※店舗名称は、大規模小売店舗立地法に基づく届出上の名称  
出典：埼玉県「令和4年大規模小売店舗名簿」





## 10) 地域経済

### ポイント

- ☞ 既成市街地（まちなか）を中心に事業所数の減少や地価の下落が顕著です。
- ☞ 本庄駅北口の駅前商業地では、空き店舗や低未利用土地が増加しています。

事業所数（全業種）は、本市の地域経済をけん引してきた駅前の商業地など既成市街地（まちなか）を中心に減少傾向にある一方、幹線道路沿道などの郊外において増加傾向にあります。

事業所数の減少と同様に、既成市街地（まちなか）では地価の下落が顕著であり、平成24年（2012年）から令和4年（2020年）にかけての増減率はどの地点でも10%以上の減少となっています。また、本庄駅北口の駅前商業地では、商店街を中心に空き店舗が増え、空き地や店舗跡地を中心に駐車場が増加しています。

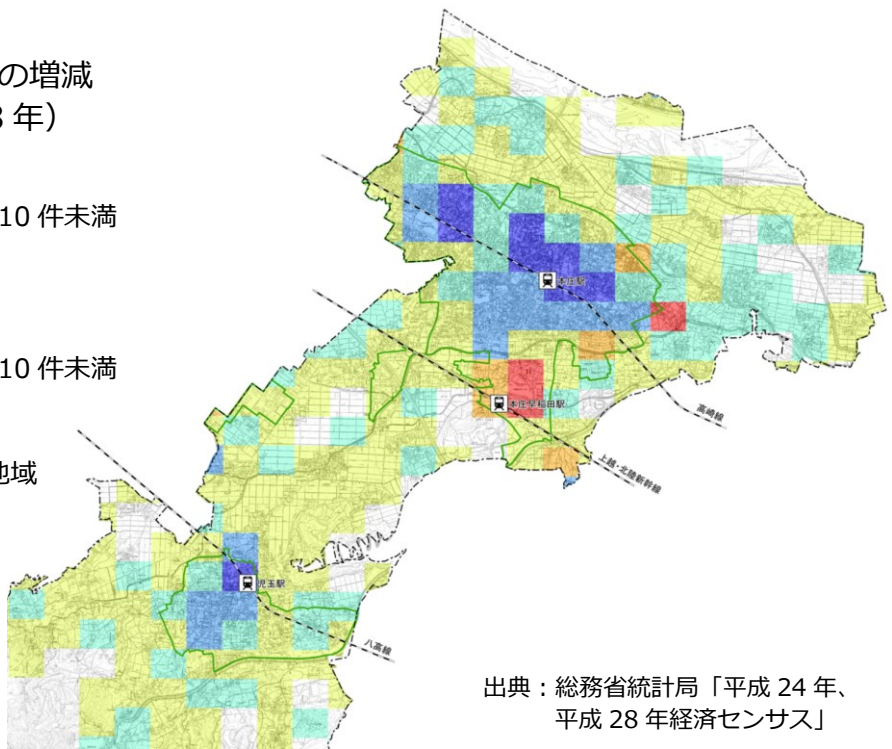
#### ■ 事業所数（全業種）の増減 （平成24年→平成28年）

- 【減少】10件以上
- 【減少】5件以上～10件未満
- 【減少】5件未満
- 【増加】5件未満
- 【増加】5件以上～10件未満
- 【増加】10件以上

市街化区域・用途地域

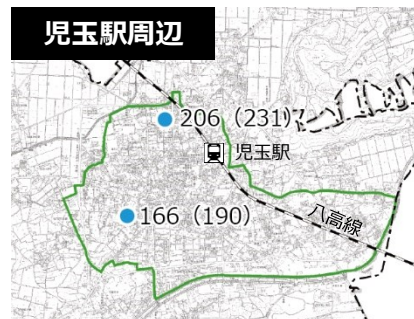
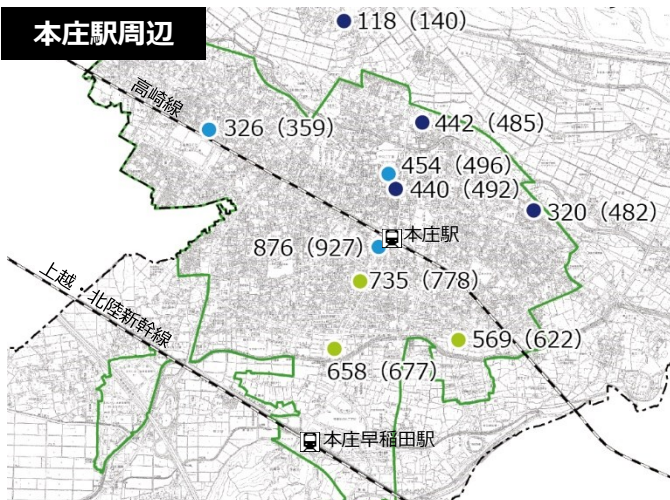
行政区域

※500mメッシュ



出典：総務省統計局「平成24年、平成28年経済センサス」

#### ■ 地価公示の増減率（平成24年→令和4年）



地価公示の増減率

- 【減少】20%以上
- 【減少】10%以上～20%未満
- 【減少】10%未満

出典：国土交通省「平成24年、令和4年地価公示」

※図中の数値は、令和4年地価公示（平成24年地価公示）単位は百円/m<sup>2</sup>

## 2. 本庄市の課題

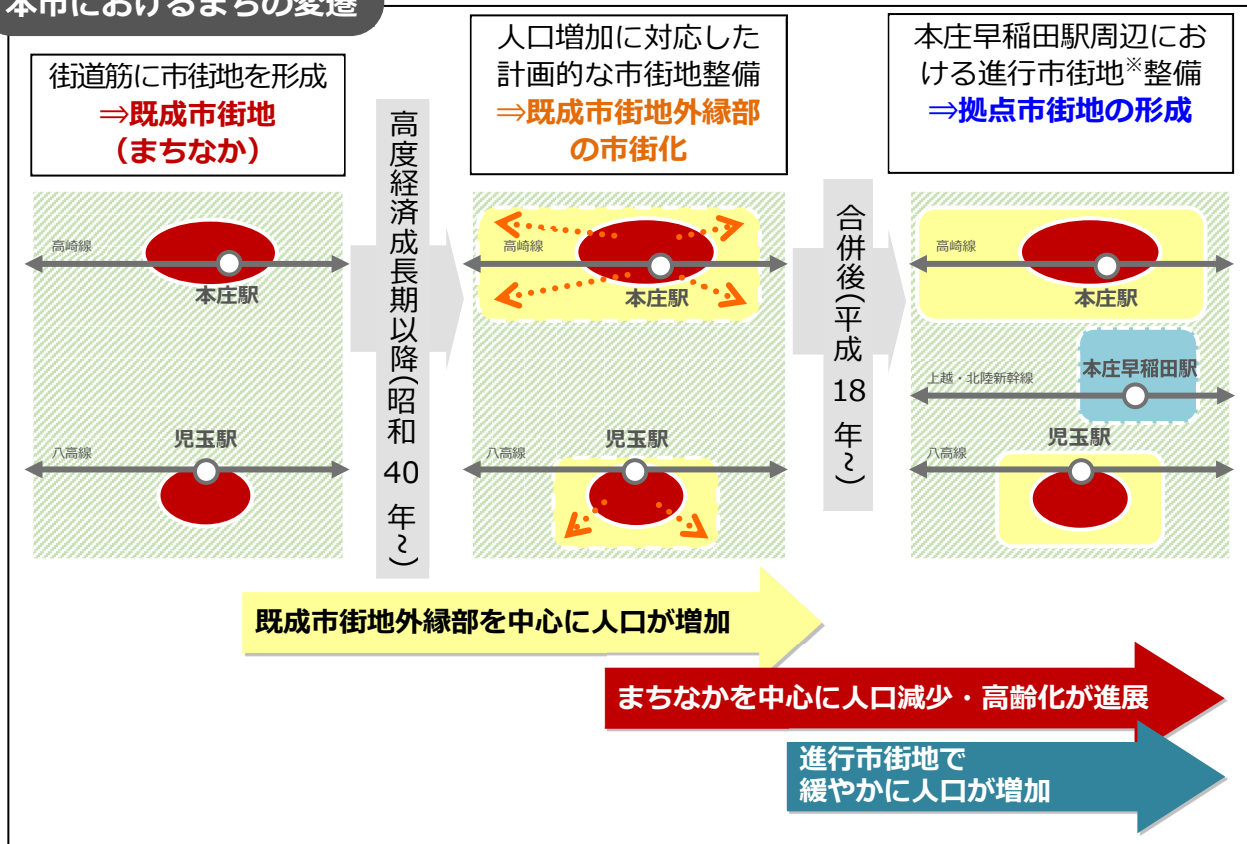
本市は、高度経済成長期以降の人口増加に対応するため、計画的な市街地整備により市街地を拡大してきました。その結果、昭和45年（1970年）から令和2年（2020年）にかけてD I D面積は約2.6倍、同人口は約1.8倍に拡大し、市街化区域・用途地域内では人口集積が図られた市街地が形成されています。

一方で、平成12年をピークに人口は減少を続け、令和2年に増加したものの、中・長期的には減少に転じる見込みです。特に既成市街地（まちなか）においては、人口減少・高齢化の進展が顕著であり、空き店舗や低未利用土地の増加など地域経済の停滞と相まって、本市の中心でありながら様々な問題が顕在化しています。これは、計画的に市街地整備を行ってきた外縁部と比較して、道路基盤の整備が立ち遅れており、住宅の更新や土地の流動化が進んでいないことが一因として挙げられます。

このまま既成市街地（まちなか）が衰退した場合、本市を形づくる歴史、文化といったまちの顔の喪失や魅力の低下につながり、さらなる人口減少といった悪循環をもたらす可能性があります。

このような課題に加え、当初計画策定以降の事業進捗状況や近年のコロナ禍による人の動きや生活様式の変化なども踏まえ、本計画を見直し、「まちなか」の課題解決に向けて重点的に取り組む必要があります。

### 本市におけるまちの変遷



※ 進行市街地：宅地化が進行中の市街地のこと。郊外に新たに開発する「新興住宅地」（例. ニュータウン）とは異なる。



本市の現状・将来見通し

本庄市全体		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ H12年をピークに人口 ⇒ R22年(2040年)には人口6.5万人まで減少する見込みが減少</li> <li>高齡者(65歳以上)人口割合は40%に達する見込み</li> </ul>		
<b>既成市街地(まちなか)</b> <b>本庄駅・児玉駅周辺</b>	<b>既成市街地外縁部</b>	<b>進行市街地</b> <b>本庄早稲田駅周辺</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人口減少・高齡化が進展</li> <li>○ 道路基盤整備の立ち遅れ</li> <li>○ 高い居住ニーズ、一方で商業の活気に対して満足度が低い</li> <li>○ 駅前空き店舗・低未利用土地が増加</li> <li>○ 商業機能等の郊外への拡散</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定住が進み人口が増加</li> <li>○ 生活サービス施設は徒歩や自転車、バスによる利用が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ H25年度に土地区画整理事業が完了</li> <li>○ 若い世代を中心に緩やかに人口が増加</li> </ul>

現状のまま  
人口減少・高齡化  
が進展した場合...

既成市街地(まちなか)のさらなる衰退 ⇒ まちの顔の喪失・まちの魅力の低下  
市街地の低密度化 ⇒ 日常生活を支える機能の低下

持続可能な都市の実現に向けた課題

本庄市全体		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 若い世代に選択される魅力ある居住地の形成</li> <li>○ 高齡者が安心して暮らし続けられる居住環境の確保</li> </ul>		
<b>既成市街地(まちなか)</b> <b>本庄駅・児玉駅周辺</b>	<b>既成市街地外縁部</b>	<b>進行市街地</b> <b>本庄早稲田駅周辺</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 道路基盤整備と合わせたまちなか居住の促進</li> <li>○ 駅前の活力・魅力向上</li> <li>○ 既存ストックや低未利用土地を活用した商業機能等の維持・確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活サービス施設の持続的な確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人口増加に対応した都市機能の誘導</li> <li>○ 子育てしやすいまち、健康に暮らし続けられるまちの実現に向けた魅力ある拠点形成</li> </ul>

